

淀川河口と神崎川河口に挟まれた海岸は、江戸時代、京都の矢倉九右衛門により新田として干拓されたため、「矢倉海岸」と呼ばれています。

矢倉海岸に向かう途中の大野川緑陰道路の林ではスズメやムクドリ、シジュウカラのほか、この時期には秋の渡りの小鳥たちが立ち寄ります。

また、淀川の堤防では、ホシハジロやスズカモ、キンクロハジロなどが到着し始めており、カンムリカイツブリやハジロカイツブリ、鉄塔のミサゴなども観察することができます。さらに、神崎川の右岸にある矢倉干潟では、ハマシギやイソシギに出会えるかもしれません。

厳しい寒さを乗り切るために渡って来る海辺の鳥たちの姿をじっくりと観察しましょう。

**やさしいきもち** 野外活動、無理なく楽しく  
採集は控えて自然はそのままに  
静かに、そーっと  
一本道、道からはずれないで  
気をつけよう、写真、絵画、人への迷惑  
持って帰ろう、思い出とゴミ  
近づかないで、野鳥の巣

ファミリーネイチャークラブ **パーティ**

やぐらかいがん  
**矢倉海岸**  
～カモのなかま～

2015年11月3日(火・祝)



担当：矢倉海岸定例探鳥会リーダー  
駒田 峰子  
上村 賢 (090-8653-9165)

